

大沢野・富山南道路 PI 事業に関する認知度・満足度の比較分析

金沢大学工学部

○ 水谷 幸史

金沢大学大学院自然科学研究科 正会員 高山 純一

金沢大学大学院自然科学研究科 正会員 中山 晶一朗

1. はじめに

近年の道路政策では、行政側からの情報公開や国民意見の計画・事業への反映が強く求められており、公共事業における合意形成の問題は大いに注目を集めている。このような背景の中、建設省道路審議会では建議の策定過程において、「キックオフレポート」による意見募集に始まる全国的な Public Involvement (以下 PI) を初めて実施した。また、新道路整備 5 ヶ年計画において PI 方式の導入が謳われており、合意形成手法の一つである PI 方式への関心が高まりを見せている。

PI 活動は、大きく計画段階の PI と事業段階の PI とに分けることができる。計画段階の PI は都市計画や道路計画、環境計画等において全体的方向性を定めることが目的である。一方、事業段階の PI は、具体的な個別事業が明らかな PI である。この段階では説明責任の達成、透明性の確保によって、事業の円滑化を図ることが目的となる。既存研究などから、PI の先進国である欧米に比べて日本の PI 事業では、計画段階における住民参加が十分に浸透していないという問題があることが分かっているが、今回対象とする大沢野・富山南道路 PI 事業はルート案・インターチェンジの位置などの決定に際し PI 事業を導入していることから、事業段階の PI といえる。

近年、全国的にも PI 事業を導入している自治体は増えてきているが、その中でどの手法が最も効果的な PI 事業のプロセスであるかということは確立されておらず、未だ手探りの状態である。そこで、本研究では、調査事例として大沢野・富山南道路で実施された PI 事業を対象とし、より効果的な PI 手法の検証を目的とする。

本研究では、対象事業である大沢野・富山南道

路 PI 事業の初期の PI 活動として平成 13 年度に大沢野町町民を対象に実施された第 2 回意見募集と、平成 15 年度に実施された第 4 回意見募集の結果を分析・比較することに重点をおいた。第 1 回・第 2 回の意見募集では、これまでの研究において詳細に分析することが成されていない自由記述型のアンケートが実施されており、その結果を用いた分析を行うことは大きな意味を持つものになると予想される。また、第 2 回意見募集が実施されたのが事業開始当初の平成 13 年度 11 月であるのに対して、第 4 回意見募集は平成 14 年度の 12 月に実施されている。この頃には大沢野町内での住民説明会、意見募集などはかなり進んだところまで来ており、その話し合いはルート帯案やインターチェンジ案などの細かい部分にまで及んでいる。つまり、PI 活動としては終盤近くを迎えているということになる。これらのことより、第 2 回意見募集の結果と第 4 回意見募集の結果を比較分析することにより、PI 事業の開始当初と終盤になってからを比較して、PI に対する住民の認知度・満足度などはどのように変化しているのかということを検証していく。

2. 大沢野・富山南道路の概要

(1) 大沢野・富山南道路の概要

大沢野・富山南道路とは、富山高山連絡道路の一部であり、富山高山連絡道路は、平成 6 年 12 月に路線指定された地域高規格道路である。このうち約 6.6km が「猪谷楡原道路」として建設中であり、この猪谷楡原道路に続いて大沢野町を通り富山市へつながる約 9 km の区間が大沢野・富山南道路である。

もともと大沢野町から事業が開始されたため

に、最初は「大沢野道路」と呼ばれていたものが、平成 15 年から「大沢野・富山南道路」と名称を変

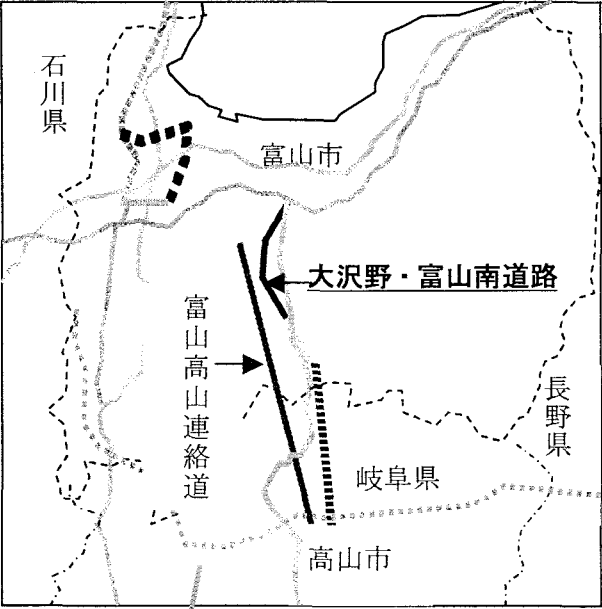


図 1. 大沢野・富山南道路概要

更し、富山市側を含めた約 13.1 km の国道 41 号線に接続する全ての区間の道路整備計画に PI 事業を導入している。

(2)PI 活動の経緯

PI の導入は、平成 13 年 3 月の第 1 回 PI 検討委員会からスタートした。大沢野道路 PI 活動では①PI 検討委員会②PI 実行委員会③地域代表者による地域懇談会④経済団体・組織による地域懇談会の 4 つの組織が連携しながら情報提供や意見募集などの PI 活動を進めている。現在は、大沢野町でのルート帯案・インターチェンジ案の決定を受けて、富山市の角逐ごとに住民説明会、意見募集を行っている。

主な PI 活動としては、大沢野道路瓦版と称されたパンフレットの配布による情報提供、また瓦版発行時にアンケートはがきを折り込むことによる意見募集、その他にサンプリング調査、住民説明会、イベント PR 活動などを行っている。

3. これまでの研究成果

本研究では、大沢野・富山南道路 PI 活動の一環として実施されている意見募集のデータを用いる。第 1 回、第 2 回の意見募集については自由回答記述方式である。また、第 3 回から第 5 回ま

での意見募集については昨年度の研究にてすでに分析されているためその結果を用いる。第 1 回から第 4 回意見募集に関しては大沢野町住民のみを対象としている。それぞれのアンケート回答者の居住地区割合を以下に示す。

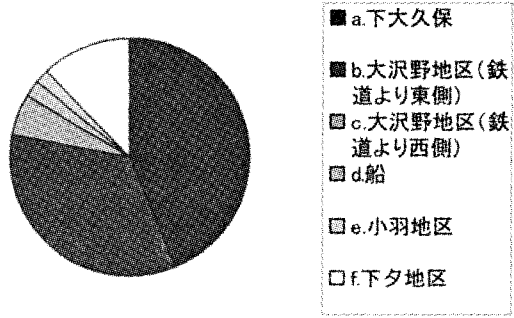


図 2. 第 2 回意見募集居住地区割合

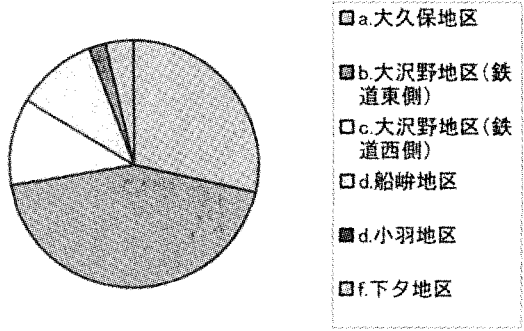


図 3. 第 4 回意見募集居住地区割合

また地区内での相関性について現在分析中である。

4. おわりに

本研究を行うにあたって最終的に得られるであろう成果としては、PI 事業に伴う住民の意識変化を追っていくことによって PI 事業の効果を確認することができるだろうと考えられる。この研究成果は適切な PI プロセスの確立のために大きな意義をもつものになるはずである。

参考文献

宮川愛由，高山純一，中山昌一郎；大沢野・富山南道路 PI 事業を対象とした調査研究，都市計画論文集 No39-3 409～415 2004 年 10 月